

会 議 録

会議の名称	第2回茨木市総合計画審議会
開催日時	平成26年7月9日(水) (午前・ 午後) 6時30分 開会 (午前・ 午後) 8時30分 閉会
開催場所	市役所南館10階 大会議室
議長	山内 直人
出席者	<p>[委 員] 宮井 美穂、森本 康嗣、山田 理香 <以上、市民 3名></p> <p>今西 幸蔵、小尾 義則、肥塚 浩、新野 三四子、久 隆浩、 松田 曜子、山内 直人 <以上、学識経験者 7名></p> <p>明瀬 秀憲、大上 眞明、長田 佳久、木村 正文、小池 伸一、 福井 紀夫、萬谷 千寿穂 <以上、関係団体から推薦された者 7名></p> <p>朝田 充、安孫子 浩子、上田 光夫、桂 睦子、篠原 一代、 長谷川 浩 <以上、市議会から推薦された市議会議員 6名> 【23名】</p>
欠席者	奥本 浩久 【1名】
事務局職員	楚和副市長、柴崎副市長、八木教育長、小林総務部長、 河井企画財政部長、大西市民文化部長、石津健康福祉部長、 西林産業環境部長、大塚都市整備部長、久保教育総務部長 上田企画財政部次長兼政策企画課長、岡田政策企画課長代理、 向田政策企画課政策推進係長、川寄政策企画課職員、 中田政策企画課職員 【15名】
開催形態	公開
議題(案件)	(1) 開会 (2) 基本構想(案)の審議について (3) その他 (4) 閉会

配布資料	会議次第 (レジュメ) 長田委員提出資料
傍聴人	4名

議 事 の 経 過

発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
司 会 (上田課長)	<p>1 開会</p> <p>会議に先立ち、第1回会議に欠席されておられた委員の方をご紹介します。 茨木労働組合総連合 議長代行の 萬谷 千寿穂様 である。</p>
萬谷委員	<p>よろしく願います。</p>
上田課長	<p>それでは、議事の審議に移りたいと思う。 審議会規則第6条第1項の規定により、山内会長に議長をお願いする。</p>
山内会長	<p>ただ今より、茨木市総合計画審議会を開会する。 委員の皆さまには、ご出席いただき、厚くお礼を申し上げます。 それでは、会議次第に沿って議事を進行させていただく。 午後8時30分頃を目途に会議を終えたいので、ご協力をお願いする。 なお、前回、決定したとおり、会議は公開としている。 最初に、本日の委員の出席状況について、事務局から報告をお願いする。</p>
上田課長	<p>本日は委員総数24名中23名の委員にご出席をいただいております、審議会規則第6条第2項の規定により、会議は有効に成立している。</p>
山内会長	<p>2 基本構想（案）の審議について</p> <p>定足数を満たしているということで、会議を進行させていただく。 本日は、会議案件としてお示ししているとおり、基本構想（案）について審議に入りたいと思う。</p> <p>内容や今後の審議の流れについては、前回、事務局から説明があったが、次回以降、各専門部会で、基本計画の施策別計画等について審議を行った後、そこでの議論を踏まえて、全体会議で基本構想へその内容をフィードバックする部分が出てくるものと考えている。そのため、本日の審議については、基本構想について、委員の皆さまから自由にご意見、ご提案等をいただきながら、大きな視点から主な論点の洗い出しができればと考えている。</p> <p>限られた期間や回数での審議となるので、こういった方針のもと、本日の会議を進めていくので、よろしく願います。</p> <p>それでは、ただいまの方針をもって、基本構想（案）の審議に入る。 ご意見等のある方は、挙手にて、ご発言をお願いしたいと思う。</p>
朝田委員	<p>基本構想（案）について、感じたことを順に述べる。 7ページ、（3）茨木市を取り巻く社会環境の①人口減少社会の到来と人口構造の変化で、人口減少に対応しなければとあるが、人口を増やすという方針に違</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>和感を覚える。総合計画は住民の福祉の増進を図ることが主目的である。人口の増減はまちづくりに影響があるが、過度に着目する必要はない。人口が減っても生活の質が低下しないことを考えるべきである。産業経済政策では、これからの雇用は福祉・医療・教育、第1次産業ではないか。これまでの都市計画は膨張政策だったが、その中で一定広域的な道路や鉄道は整備されてきた。これからは市街地を計画的にインフラなどとともに縮小すべきで、交通政策の抜本的な見直しや都市計画道路の計画変更を行い、歩道整備、交通安全、駅のバリアフリーを優先するのが良い。</p>
上田委員	<p>参加者が多いので発言内容は簡潔にしてほしい。</p>
朝田委員	<p>整理して話す。8ページの③主要プロジェクトで記述されている都市基盤の充実も方向性が違うと思う。波及効果は期待できないと思うし、市民ワークショップでもプロジェクト関連で積極的な意見はなかったと思う。せつかくの意見が反映できていないのではないか。9ページ⑥地方分権について、自己決定自己責任論は実態として財政を伴わないものであり、疑問である。10ページ⑨財政環境、ここは強調したい。厳しい財政環境の論調は、社会保障費が原因であるというのは誤りであり、元々防災の観点である自助・共助・公助を福祉の分野に拡大するのはおかしい。社会的弱者の切り捨ての言い訳になっている。復古調のお上の発想はだめであり、所得の再分配が基本であると考えているので、国の論調をそのまま総合計画に反映するのは問題がある。</p>
山内会長	<p>関連意見はどうか。</p>
桂委員	<p>進め方であるが、出てきた意見を逐一議論するのか。前から順に進めていくのか。</p>
山内会長	<p>これまでは計画の前提の意見であるので、14ページまでで意見はおありか。</p>
久委員	<p>茨木の魅力であるが、都市構造の形成の視点から2点意見がある。6ページ⑤歴史文化が息づくまちで、城下町であったことが抜けている。今でもその面影が都市構造として残っているので、中心市街地を考えると意識すべきである。次に5ページ④働き、学び、住み、多様な機能をもつまちでは、コンパクトな都市構造とある。彩都はあるが、隣の高槻市と比べこれまで丘陵部の開発を抑えてきたので、市街地の拡大を抑えたという文言を加える必要がある。</p>
山内会長	<p>事務局から何かコメントは。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
河井部長	朝田委員の発言については、意見の表明として承る。ただ、主要プロジェクトについてワークショップで意見が出ていないということであったが、ダム湖の活用への期待は大きいと感じている。ワークショップでいただいた意見はまちづくりの視点を導く過程でしっかりと位置づけた。社会環境の部分はワークショップだけではなく、一定行政としての視点も加え整理した。また、財政環境については、社会保障費が原因と特定しているのではなく、客観的な状況を記述している。
山内会長	城下町、市街地の抑制については、今日の意見を踏まえ事務局と検討したい。では基本構想の内容について審議を行いたい。
萬谷委員	小学校の教員をしているが、私が所属する専門部会は第2部会であるので、構想についての全体会議の中で教育の話をしたい。6ページ⑦教育・子育て環境が充実したまちは良いことであり、メディアにも取り上げられた。しかし、職員が労働基準法等を超えて長時間労働をして、その中でこの成果が出ていることを知ってほしい。コンプライアンスができていない。
山内会長	具体的にどこを変更したいかを発言してほしい。
萬谷委員	現状がこのとおりではないことを知ってほしい。19ページ、(2)次代の社会を担う子どもたちを育むまちでは、「よりよい学習環境を整備する」とあるが、高槻市、吹田市のような少人数学級を茨木でも考えてほしい。また、茨木の中学校では給食といっても弁当の注文であり、他市の給食と同じではない。この点についても学習環境のところで検討してほしい。
山内会長	ほかにおありか。
桂委員	19ページ「次代の社会を担う子どもたちを育むまち」は、大人目線で書かれているように感じる。子ども子育て新プランでは子ども目線で書かれている。ここでの表現を見ると乳幼児については親が楽にという印象が強い。また、「青少年が活動に参加し」という表現は、強制しているような印象があるので、「参加できる」というニュアンスで検討してほしい。他の委員の意見も伺いたい。
上田委員	茨木のまちの変遷は、久委員が言われたように、城下町、コンパクトシティとしての歴史がある。他にも、ベッドタウンとして発展してきた要素もあると思う。これからの10年間の計画をつくるにあたり、その位置づけを明確にすべきである。今後、各論の議論をする中で、大切になると思う。どういう生活をする都市をめざすのか検討していただきたいし、議論していきたい。

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
篠原委員	<p>18ページ「ともに支え合い、健やかに暮らせるまち」について、近隣のつながりがなくなっていることを受けるなら、「相互に認め合い、支え合って暮らす社会」の後ろに「互助」の視点も入れていただきたい。</p> <p>また、少し戻るが、7ページ「人口減少社会の到来」について、人口減少の何が問題なのかが分かりにくい。前半で福祉を充実と言っているが、後半では人口を増加させる取組を行うと書かれており、文章のつながりが気になる。9ページ「環境問題」では、内容は問題ないが、経済成長を背景に大量生産・大量消費等が起きた結果、自然に負荷がかかりという流れだと思う。また、環境問題と総論で書かれているが、地球温暖化という視点が大事で、言葉として入れ込む必要はないか。</p>
山内会長	<p>これまでのところについて、事務局からは何かあるか。</p>
石津部長	<p>篠原委員のご意見の「自助」「共助」「公助」については、今回記述するにあたって庁内で相当議論をした。市では総合保健福祉計画の一つである、地域福祉計画を策定した時から「自助」「共助」「公助」と書いている。最近「互助」が出てきていることも認識しており、入れるべきかどうか考えたが、国がまだ「互助」を明確に位置づけていないこと、現行の計画での記述から、このような形にしている。ご意見として承り引き続き検討する。</p>
久保部長	<p>桂委員のご意見について、子どもたちを育むには、大人と子どもの両方の視点が必要だと思うので、指摘いただいた点も含めもう少し検討する。また、青少年関係については、「参加し」より「参加することができ」という表現の方がよいかと思うので、その方向で検討する。</p>
西林部長	<p>環境問題について「地球温暖化」の視点をというご意見だが、「低炭素社会の実現、森林等の保全」などで温暖化について表している。</p>
河井部長	<p>上田委員の茨木市の位置づけは、5ページの魅力④で「働き・学び・住み、多様な機能をもつまち」のところで都市の位置づけを整理している。これをベースに施策も考えている。篠原委員のご意見、7ページの人口表現については、文脈を再度精査したい。</p>
山内会長	<p>他にはおありか。</p>
上田委員	<p>位置づけを改めて認識した。キャッチフレーズとして、ベッドタウン的な生活都市の要素が大事ではないかと考えて意見した。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
大塚部長	<p>環境問題の意識の高まりとあるが、ベッドタウンである生活都市のエネルギーを、自立に至るかどうかは別として、農山村部の1次産業も含めどう地域で賄うかという、茨木市だからできることを都市政策的に入れられないか。</p> <p>上田委員のご意見は「生活の場所としての茨木という捉え方をメインにする」と言う話かと思うが、委員の中でもご意見が違うと思うので議論していただきたい。都市計画の立場から言うと、生活の場としての機能が中心だと思うが、工業、商業地域、大学立地などいろいろな機能を備えた都市で、これらをどう維持・発展させるかがポイントであると考えている。中心は暮らしの場であろうと認識しているが、総合計画では多面的に捉えたいという意識から、このような表現になっていると思う。それを表すために駅乗降客の資料なども載せており、またご議論いただければと思う。</p>
西林部長	<p>東日本大震災に起因して、再生可能エネルギー、省エネルギーをどうすべきかという視点で書いており、エネルギーの自立までは書くのは難しい。</p>
上田委員	<p>自立までは難しいと思うが、例えば山間部の森林の活用など、茨木市の中でうまくエネルギーを融通することを検討してほしいという意見である。そのような考え方はこの文章に入っているのか。</p>
西林部長	<p>ここでは「意識の高まり」として、市民、事業者の方々に何ができるかという思いを書いた。ご意見のエネルギーをどううまく使うかは、今後具体的な事業の中で検討していきたいと思う。</p>
山内会長	<p>市民の意識の観点からは23ページに記述されている。</p>
久委員	<p>「茨木市をどのように捉えるか」という観点と、環境の話について、意見を述べたい。私は高槻、吹田、箕面という近隣市の方々とも一緒に仕事をしているが、比較して茨木を捉えると、商工会議所をはじめとして地元商工業者が元気で、まちづくり、市民活動を担っている点が良いところである。事業者が絡むことでお金も集めて動かせるという点では、非常に良い関係にあると思う。そういう意味では、バランスがとれていると言える。商工業者が自らまちのために動いていることが特徴なので、箕面市のように住むという機能が中心であるベッドタウンとはかなり状況が違うという認識を持っている。弱いところは、例えば高槻では早くから環境林業に取り組んできた。ペレットストーブも開発しているし、林業組合が大学と連携してバイオークス化も進めている。そういう視点では、茨木はまだシステム化ができていない。私も上田委員と同じ期待はあるが、この10年間</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
桂委員	<p>でと考えると、これからシステムを作っていく段階ではないかと思う。</p> <p>久委員が言われたように、10年では確かに厳しいと思う。上田委員が言われたエネルギーの部分は23ページが該当すると思うが、この中に省エネルギー、再生可能エネルギーが位置づけられているので、この部分でどんな事業を展開されていくのかに期待したい。ただ、そのためには上田委員も意見された1次産業の位置づけが課題となる。構想の中では農林業への考えが読み取れない。山間部のポテンシャルの活用など、何か記述しておく必要があるのではないか。</p>
大上委員	<p>山間部の林業は、木材の自由化により、昔のように植林したり、木を切って炭を焼いたりすることがなくなった。国の政策を批判しても仕方がないが、自由化により皆が林業に関心を持たなくなったことが原因で、このような状況になっている。茨木から間伐材を高槻の森林組合に運んで、チップにしたり、ストーブの燃料にしたりしているが、高槻のような需要はまだ茨木には少ないと思う。</p>
安孫子委員	<p>24ページ「まちづくりを支える基盤」に「人権尊重のまちづくりと、男女共同参画社会の基本理念」と書かれているが、人権についての表現が大まかすぎるように思う。ここに全て包含されているとは思いますが、例えば高齢者や障害者については、18ページに「安心して生きがいを持って生活できる」という記述があるものの他の人権課題については記述がないように思う。例えば、今後大学への外国留学生が増えるなら、「多文化の共生の視点を踏まえ」や「マイノリティへの配慮」というような言葉をどこかに記述してはどうか。</p>
大西部長	<p>個別に上げると書ききれないので、このような表現になっている。ただ、現在並行して人権施策推進基本方針を検討しているので、その視点も踏まえた反映を検討したい。</p>
長谷川委員	<p>9ページ⑦コミュニティの変容で「地域力の向上をめざした取組が求められています」とあり、スローガンでは「つながり」や「人の輪」となっている。市民アンケートでも地域活動に参加していないが4割とあるが、逆に6割は参加していることになり、茨木市は地域をつながり、地域力のあるまちだと思う。ただ、地域の希薄化が進んでつながりが作りにくいという点を踏まえて基本構想を考えなければならないと思う。18ページからいきなり、地域で福祉、子育て、防災となるが、そうではなく地域をつながりをつくるためにはどうするかという方針が必要である。例えば、自主防災活動は全ての地域でできていないし、自治会がないところもある。どうつながりをつくるかが前提であり、皆さんの意見を聞きたい。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
河井部長	<p>24ページの「まちづくりを支える基盤」は、従来型であれば行政内部の行財政改革などが入るが、今回は各政策分野に共通する基盤となる部分を入れている。その中で、先ほどの「人権尊重」「男女共同参画社会」などもすべての分野に反映されるべきという趣旨で書いている。地域コミュニティの施策についても、「まちづくりの主演は市民です」の段落に書いている。順番が最後で分かりにくいところもあるかと思うが、そういう趣旨だご理解いただきたい。</p>
明瀬委員	<p>19ページ「次代の社会を担う子どもたちを育むまち」については、学力がメインに書かれているような印象を受ける。これから10年先を考えると、学力だけでなく、体力の向上や社会問題に対する教育も重要になると思う。ルールを守ることが大切であることを子どもたちに学んでほしい。「様々な活動に参加する」とあるが、地域での活動も含めいろいろな形で学ぶことができる。学校のクラブ活動や地域のスポーツ活動でも、しっかりと社会のルールを学んでいく。それがここに含まれているなら、「適切な支援」という表現はどうかと思う。その後の「心豊かに」というところで、情操教育の面をもっと伸ばしてほしい。</p>
山内会長	<p>事務局は何かおありか。</p>
久保部長	<p>子どもたちには「知徳体」のバランスの取れた育成が必要であり、総合計画の中でも大切な部分であると考えている。ここでは「確かな学力」と書いているが、さらにそのような面も書く必要があると思うので少し精査したい。「参加することができる」については、クラブ活動、地域活動、放課後子ども教室等、子どもたちが生活・学校の中で地域の支援を受けながら、いろいろな体験をして感受性を高める、地域に愛着を持つことがふるさと茨木の醸成につながるのではないかと思う。「適切な支援」とはそういう考えで書いている部分もあり、今後具体的な事業を検討する中で議論を深めていきたい。また、当然ルールを守ること必要であり、健全育成の観点の中で、規範意識を守るような施策も必要と考えている。</p>
松田委員	<p>私は地域防災が専門だが、長谷川委員が言われた「つながり」については、これまでの経験上、つながりができてから防災をするよりも、災害の問題を抱える地域が備える活動をすることによって、つながりが育まれている。それは、防犯であれ教育であれ、同じであり、行動を起こすことでつながりが生まれると言える。25ページの概要図に「つながり」があるのはワークショップという行動から出てきたのではないかと思う。このような概要図は市民がこれを見たとき、また我々がこれから議論するときのことを考えると、概要を最初に入れるほうが良いのではないか。また、7の基盤が大事だが、最後になっているのを前にもってき</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
山内会長	てはどうか。さらに、カットイラストが空欄になっているが、文章を概念化するようなものなら非常に重要である。その点について確認したい。
山内会長	私も概要図は最初の方が分かりやすいと思う。7を最初に置くかどうかは意見があるかもしれない。
河井部長	概要図を前に持ってくるのは場所も含めて検討させていただく。7を前にもってくるというご意見については、概念図上も基盤は下にある方が良いと考えている。また、先ほど「個別の活動・取組がつながりを生む」という貴重なご意見をいただいたので、その視点からも、後にあっても良いのではと感じた。さらに、カットイラストは庁内でも議論があり、当初論点を表す方向で考えていたが、適切に示すのが難しいこともあり、議論をいただいた結果を踏まえて適切に表せるかどうか再検討したい。まとまらなければ、ほのぼのとしたイラストになるかもしれない。
長谷川委員	概要図の「まちづくりの視点」に「活力」「つながり」があり、その「活力」の中に「茨木らしさ」とある。ワークショップでも茨木を象徴する「茨木らしさ」があると良いという意見が多数出ていたように思う。このスローガンにある「茨木らしさ」はどういうものなのか、共通認識となるよう検討していただきたい。
小尾委員	将来像について「みんなの“楽しい”が見つかる文化のまち」とあるが、わかりにくい。私は「歴史・文化が息づくまちづくりを今後も維持していこう」と読んでいるが、施策別計画を見ても少しわかりにくいところがある。将来像として、どういうまちを実現していくのか教えていただきたい。
大西部長	歴史・文化だけでなく、20ページに記載した生涯学習や観光など、さまざまな資源、北部地域の活用による賑わい、また異文化、国際交流などすべて含めて、さまざまな人が訪れるという意味で楽しいが見つかるとした。具体には今後の事業で挙げていく。
山内会長	見出しが分かりにくいという指摘である。
小尾委員	情緒的な表現になっていると思うが、皆さんが共通理解できるのであれば特に問題はない。
木村委員	歴史・文化、教育、子育ても楽しくしたい、「茨木での暮らしを楽しくしたい」という意味だと理解している。「らしさ」という言葉はあまり好きではないが、

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
長田委員	<p>「茨木らしさ」とは、ここにある「茨木の魅力」を、もっと深めて、自分たちが自慢できるまちにしていこうということだと思ふ。市民アンケートでも「商店街でもっと楽しく買い物をしたい」という意見も出ていた。楽しく生活して、買い物をして、またベッドタウンだけではなく、働く場所もあり、働いてゆとりができれば教育にも良いのではないかと等々の要素を含んだ「ほっといばらき もっと、ずっと」というスローガンだと思ふ。自分達がこれからめざす構想なので、わかりにくければ、みんなで考えれば良いと思ふ。</p> <p>自治会の視点から「茨木らしさ」「人の和」について日常の活動と関連して考えてみた。レジュメを作成したので、ご意見いただければありがたい。茨木市では、自治会をはじめ、公民館、福祉、自主防災、防犯、PTAなど、さまざまな地域活動を市の担当部局との連携のもと、積極的に続けている。昭和30年代後半から自治会が起ち上がり、今日まで活動を続けている。現在、32の連合自治会があり、その下に504の自治会があるが、多少の地域性と特徴はあるものの、すべての地域でほぼ同様に、それこそ茨木らしく活動を展開できており、地域の発展に貢献できていると思ふ。今後も引き続き概要図のように、魅力を伸ばし、社会の流れを取り組んで、茨木市の発展に寄与・貢献したいと考えている。そのためには、地域力を高めることが重要であり、まちの将来像を踏まえて取り組んでいきたい。</p>
山内会長	<p>地縁はつながりの基礎であるので、とても重要な活動をされている。</p>
篠原委員	<p>茨木らしさについては、よく北摂7市で比較され、茨木は等身大の中で、今ある財産をしっかりと花開かせていくことが「茨木らしさ」ではないかと思っている。特別に秀でる必要はなく、今ある人や自然、行政も含めてさまざまな財産を輝かせていくことが大切である。</p>
久委員	<p>スローガンという表現の仕方の意味は分かるが、できれば適切な日本語で書いていただけたらと思ふ。おそらく「理念」という言葉は今まで使い古されているので使わなかったのではないかと。委員の皆さんでも結構だし、事務局でも考えていただければありがたい。</p>
朝田委員	<p>財政問題について、事務局からは「社会保障の問題について現状を書き込んだ」という回答があった。これから取り組む主要プロジェクトの財政負担についても書き込むべきだと思ふ。そこで、事務局には主要プロジェクトの財政負担がいくらなのか、ここで明らかにしていただきたい。URが撤退した彩都の東部地区も復活している。さらに阪急東口の文化芸術ホールなど、総合計画の前半部分に入</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>るプロジェクトの市負担を教えてください。</p> <p>次に、委員の皆さんに問題提起であるが、将来市の財政負担が膨らんでいく危険があるのに、ここにはそれらが何も書かれていないことを指摘しないのは後々問題があると考えます。</p> <p>最後に会長にお聞きしたい。これから部会に分かれて審議するが、全体会も含めて自分が属していない部会に対して文書発言ができるのか。</p>
山内会長	<p>ご自身が属していない部会に対して文書発言をするということか、それとも自分が属している部会に対しても文書を出して発言したいということか。</p>
朝田委員	<p>両方である。積極的に文書発言を受け付けてほしいという趣旨である。</p>
山内会長	<p>事務局の方は、技術的に可能であるか。</p>
上田課長	<p>委員はそれぞれの部会に分かれて入っていただくので、もう一方の部会の審議に参加できないことになる。そのため、一定文書でいただくことは可能だと思うが、取扱いを含め、審議会で議論していただければと思う。</p>
上田委員	<p>個別の文書要望のようになるのは、それぞれの委員が意見を言う機会を考えると、公平感がなくなると思うので、その点は運営上配慮していただきたい。</p>
山内会長	<p>他の部会が別の日に開催されるなら、オブザーバーとして参加できるか。</p>
篠原委員	<p>オブザーバーでは発言できない。</p>
肥塚委員	<p>自分が所属していない部会に文書で意見を出すのはわかるが、出席している部会に文書を出すのは違和感がある。その場で発言したらいいのではないか。</p>
篠原委員	<p>両方の部会に参加が可能であれば、発言も許可するということになるのか。</p>
上田委員	<p>専門部会として2つの部会に分けていただき、構成する委員も決めていただいた中で、もう一方の部会に出席して意見を言うのはどうかと考える。</p>
山内会長	<p>専門部会での審議の後に、再度全体会議を行うので、その時に意見を述べてはどうか。</p> <p>専門部会設置の目的は、専門的な議論をより深くするためであり、人数はあまり多くない方がよい。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
久委員	<p>部会長としては、ここで決定していただかないと困る。個人的な意見を申し上げますと、別の部会の方から出てきた文書意見は、その場で、あるいは事前でも結構だが、各部会の皆さんに読んでいただいて、それを採り上げるかどうかも含めて部会で議論することにさせていただければと思う。それでいかがか。</p>
山内会長	<p>それでは、ご自身が属していない部会に対して、文書で意見を述べる場合は、前日までに提出していただいて、その取扱いについては当該部会の判断に任せるといふこととさせていただきます。</p>
桂委員	<p>今回の審議会は、それぞれの委員がそれぞれの価値観で「私はこのような文章にしてほしい」「私はこうだと思う」というような主張型の進め方がよいのか、あるいは、自分はそう思うけれど、他の方の意見も聞きながらディスカッションする時間を取っていただけるような進め方になるのか、その心構えを事前に伺って共通認識にしておきたい。会長はどうお考えか。</p>
山内会長	<p>2つの方法の違いがわかりにくいですが、論点を絞り込んで深く議論する時間をとった方が良いということか。</p>
桂委員	<p>対立した意見を行政に任せて、行政の中で精査してもらう方法は、委員として無責任な気がするということである。</p>
山内会長	<p>論点にもよるが、委員の中で議論すべきであり、事務局は議論を助ける裏方の役割を果たしていただければと思う。先ほどの財政について事務局から何かあるか。</p>
河井部長	<p>10ページ⑨厳しい財政環境では、経常経費、義務的経費の状況の推移を述べている。朝田委員が指摘された主要プロジェクトについては、政策的経費という分類になるので、ここではなじまないと考えている。その経費については、本日は数字を持ち合わせていない。今後の考え方については、基本計画に入って、財政計画のところで議論していただければと思うので、よろしくお願ひしたい。</p>
山内会長	<p>10ページの表現は、これから市が何をするかという前提の話をしているという理解でいいか。</p>
朝田委員	<p>主要プロジェクトの経費は、議会では148億円と答えられている。彩都東部についてはまだ試算していないということだが、文化芸術ホールは概算建設費で約105億円と答えられている。都合の悪いことには触れないという態度はよくないと指</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
桂委員	<p>摘しておきたいと思う。</p> <p>朝田委員に反論であるが、先ほどの説明では、平成24年度までの義務的経費は示しているとのことである。将来的な政策的経費については、市長が代われば変わる可能性もあるし、10年後となると義務的経費ですら予測は難しいと思う。</p> <p>逆に、出すことによって確定してしまうのは、このメンバーで決定できるのかという問題もあるので、出すことがふさわしくないとの意見を述べたい。</p>
朝田委員	<p>この計画には「生産年齢人口の減少」や「施設・インフラ整備の老朽化」等のこれから本市が抱える課題も書かれている。一方で「主要プロジェクトを活かしたまちづくりの推進」と記述しながら、それに対する負担も出てくることを書かないのは、そちらの方が私はふさわしくないと思う。</p>
小池委員	<p>ここは市議会の議場ではなく、審議会の全体会議であるので、専門部会での論点整理の場であると理解している。事務局に直接要望をやりとりする場ではないと考えている。今後、専門部会で今回の全体会議で議論した内容も精査・審議した上で、全体会議へ持ち帰り、必要があれば事務局ともやりとりし、審議会の意見としてまとめるものだと思う。</p> <p>お話を伺っていると、一部の議員の方が直接事務局に対して話をされるので、我々一般の委員は出る幕がない。議会的議論は一般の委員に迷惑である。</p>
山内会長	<p>私も今のご意見に賛成であるが、10ページのところは基本的に客観的な情勢を書いているだけなので、そのようにご理解いただきたい。</p>
朝田委員	<p>2つの論点がある。市議会では数字を出して答えているので、審議会でも答えてほしいという問題と、それをこの財政問題で触れなくてよいのかという点は、審議会委員全員に問題提起したつもりである。今後、審議をしていく中で、触れなくて良いのかどうかという問題提起をしたと理解してほしい。</p>
山内会長	<p>そのようなご意見があったということ踏まえて、専門部会で議論したい。</p>
上田委員	<p>今回、初めて10年の基本構想と前期・後期の基本計画を作って、5年間の実施計画をローリング方式で毎年改定することになっているが、これは総合計画を流動的な社会情勢の変化に柔軟に対応されるためのものであると評価している。このローリングをどのようなイメージで考えられているのか、委員の中で共通認識として持つべきだと思うので、ご説明願いたい。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
河井部長	<p>14ページについてご説明する。基本構想、基本計画の下に実施計画を今回初めて位置づけた。この審議会で議論していただく基本構想、基本計画に基づき、市が行う実施事業として立案していくものであり、それを進行管理していく必要がある。これまでの総合計画のように、基本計画までだと基本計画に書かれている各取組の適切な進捗を図れないということから、連動した実施計画をここに位置づけている。ローリングのイメージだが、正式には、基本構想、基本計画が決まり、それに基づいて実施計画を策定し、市で取りまとめる。</p> <p>平成27年度の総合計画スタートに合わせ、5年間の実施計画も作成する。1年過ぎると新たな条件を踏まえて、平成28年度から32年度の実施計画を策定する。この間に施策評価を入れたいと考えており、それについては13ページ②行政運営計画としての位置づけのところに記載している。したがって、平成27年度から実施計画が始まり、その1年分を踏まえた形での施策評価を実施する。平成27年度の施策評価は、物理的には平成28年度に実施することとなるので、結果を反映できるのは、平成29年度の実施計画からとなるが、考え方としては、一定進捗状況や効果を評価しながら、その時々状況も踏まえつつ、毎年見直していくというイメージである。</p>
上田委員	<p>了解である。</p>
山内会長	<p>多くのご意見、コメントをいただいた。ご意見の中には具体的な文章の修正のご指摘等もあり、直ちに修正できるもの、専門部会での議論を踏まえて、さらに基本構想に戻ってどうするかを考えた方が良いような論点もあったかと思う。</p>
肥塚委員	<p>次回から専門部会となるが、基本構想、基本計画（重点プランと財政計画）は全体会議で審議することとなっている。ただ、重点プランは基本計画の施策別計画に関わっているの、部会でも議論するのか、そうではないのか教えていただきたい。また、基本計画は前期・後期があるが、重点プランは総合計画10年間全体に対するプランなのか、前期の5年間のプランなのかを確認したい。</p>
河井部長	<p>重点プランは基本計画なので前期の5年間のプランという考え方だが、後期と全く無関係という認識ではない。結果的に10年に渡ることもあるかもしれないが、前提条件としては5年間である。それから専門部会での審議の対象になるのかという点について、重点プランの施策、取組はそれぞれの施策別計画の中でも位置づけているので、専門部会では施策別計画として審議をお願いし、それを踏まえて全体会議で重点プランを審議いただくという流れを事務局では考えている。</p>
山内会長	<p>最後に、スローガンについて意見はないか。継続検討でよいか。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
山内会長	<p>どなたか良いアイデアがあればお願いしたい。</p> <p>本日の議論は後で事務局が議事録をまとめるので、それを踏まえて次回から専門部会に分かれ、それぞれの担当の部分について検討していただきたいと考えている。</p> <p>3 その他</p> <p>それでは、事務局からスケジュール等について説明をお願いします。</p>
上田課長	<p>次回以降の進め方は、前回の全体会議で第1専門部会と第2専門部会を設置していただいたので、その中で施策別計画等を中心にご審議をお願いしたい。</p> <p>日程は、第1専門部会が7月28日(月)午後6時30分から、市役所南館10階大会議室で、第2専門部会は、7月23日(水)午後6時30分から市役所南館8階の中会議室で開催する。正式には、後日、ご案内の文書をお送りする。</p> <p>最後に、事務局から連絡事項がある。</p> <p>次回から各専門部会でご審議いただくことになるが、第1回の全体会議で総合計画(案)としてお渡しした基本構想、基本計画の資料についてお願いがある。</p> <p>現在、茨木市ではこの総合計画の検討と併せて、文化振興ビジョンや都市計画マスタープラン、あるいは環境基本計画等、個別の分野ごとの行政計画を、同時に策定を進めている。総合計画では、当然これら個別の行政計画と整合をとり、その行政計画の中核となる部分は総合計画に記述していくという流れとなるが、個別の行政計画の進捗により、総合計画の基本計画の内容の修正が出てきている。</p> <p>そのため、申し訳ないが、本日、委員の皆さまのファイルをお預かりし、文章の統一化も含めて修正を入れた資料と差し替えさせていただきたいと考えている。</p> <p>お預かりした資料については、各専門部会の第1回の開催日の数日前までには、委員の皆さまのお手元にファイルを郵送等でお届けする。</p>
山内会長	<p>4 閉会</p> <p>事務局から説明があったとおり、次回からの専門部会でご審議いただく基本計画の施策別計画の修正手続きにご協力いただきたい。</p> <p>次回からの専門部会の審議では、肥塚委員、久委員の両部会長には、それぞれの部会運営を、よろしくお取りまとめいただくようお願いする。</p> <p>それでは、本日の第2回総合計画審議会は、終了とする。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>